

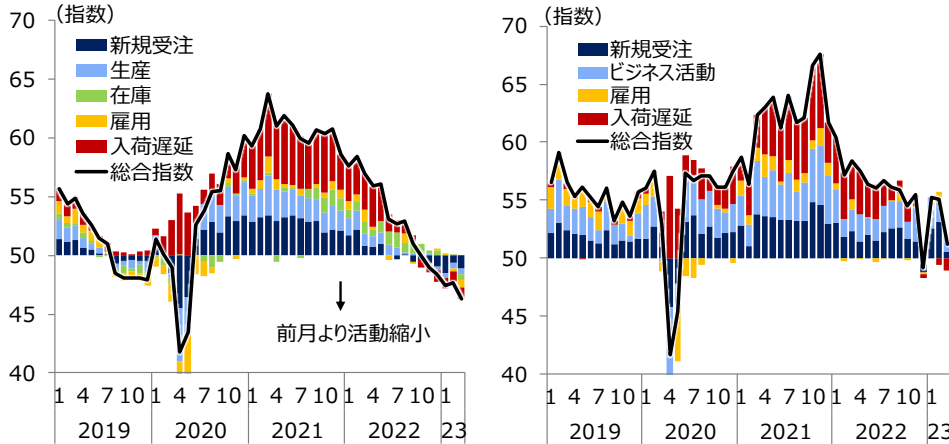
米国

ISM景況指数 (2023年3月)

企業活動は軟化傾向、銀行破綻の影響は現時点では指摘されず

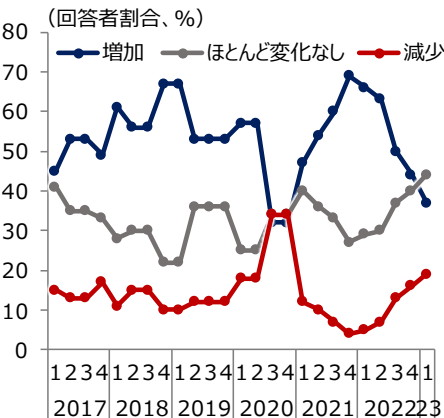
政策・経済センター
田中嵩大
03-6858-2717

1 ISM景況指数 (左: 製造業、右: 非製造業)



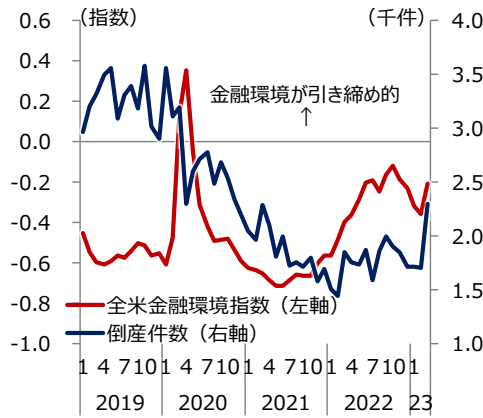
注: 調査項目について、前月と比べ「改善・変化なし・悪化」の3択で行った企業アンケート結果を加重平均して算出。
出所: Institute for Supply Management®より三菱総合研究所作成

2 自社の雇用見通し (CEO調査)



出所: Conference Boardより三菱総合研究所作成

3 倒産件数と金融環境



出所: シカゴ連銀、Macrobondより三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 23年3月のISM製造業景況指数は46.3と、経済活動の拡大・縮小の境目である50を5カ月連続で下回り、20年5月以来の低水準となった。また、非製造業は51.2と、50を上回ったものの、前月から大きく低下した(図表1)。
- 製造業の項目別では、新規受注・在庫・雇用・入荷遅延の4項目が前月から低下した一方、生産はわずかに上昇。雇用は20年7月以来の低水準となった。また、サブ項目の仕入れ価格は前月から低下し2カ月ぶりに50を下回った。
- 非製造業の項目別では、4項目全てが低下。供給制約の緩和によって、入荷遅延が50を下回って推移しているほか、新規受注が10%pt以上の下落となり、全体を押し下げた。また、サブ項目の仕入れ価格は、依然として50を上回っているものの、20年7月以来の低水準となった。

基調判断と今後の流れ

- 米国の企業活動は、製造業が引き続き悪化しているほか、非製造業も業況拡大が鈍化している。ただし、非製造業でも供給制約の解消・インフレ圧力の緩和を指摘する声が多く聞かれたことは、サービス品目のインフレ解消という視点からは前向きな要素と捉えられよう。
- 米国経済や物価動向を見るうえで重要な雇用については、業種や企業の景気見通しによって割れている(図表2)。専門サービスなどでは人員削減を予想する声があった一方で、対人サービス業では根強い人手不足を訴えている。また、製造業では人員削減を計画する企業と、23年後半以降の景気回復に備えて増員や維持を計画する企業で二分されている模様だ。
- 先行きの注目点は、銀行破綻による企業活動への影響だ。今回の調査では、銀行破綻による悪影響を指摘する企業コメントはなかったものの、融資基準引き締めによる資金調達環境の悪化が懸念される。米国では、政策支援もあって、コロナ危機以降は企業の倒産件数が抑制されていたが、足元で増加傾向にある(図表3)。金融不安から銀行が融資基準を厳格化することとなれば、資金繰りが悪化した企業の倒産が増加する恐れがあり、警戒が必要だ。